

# 知的世界への冒険

進路部では、さまざまな分野で研究しておられる研究者をお招きして“専門家の視点”を諸君に披露していただく講演会「知的世界への冒険」を企画しています。専門家の視点に触れる貴重な機会です。さらに講師の先生方は北野高校の卒業生をはじめとして諸君に縁の深い方々ばかりです。知的好奇心を奮い立たせ、前向きに受講してほしいと思います。

下記の講師の先生方の専門分野および紹介文をみて、関心のある内容、講師の先生を選んで、希望調査用紙に記入して提出して下さい。講演会は9月7日（土）の3時間目です。

## **[A]** 京都大学 学際融合教育研究推進センター 先端医工学研究ユニット

近藤 輝幸 教授 (92 期)

### 「京都大学の医工融合教育・研究への取り組み – 異分野融合のススメ –」

早いもので、私も北野高校高等学校を卒業して30年余りが過ぎました。皆さんと同じこの場所で、学び、遊び、京都大学に憧れていた私は、現在、京都大学工学部工業化学科および大学院工学研究科物質エネルギー化学専攻の若い優秀な学生諸君と一緒に、医学と工学との融合研究、また、産と学との連携研究に取り組んでいます（研究室HP：<http://www.probe.abe.kyoto-u.ac.jp/>）。

21世紀に入り、学問の境界はますます薄れています。様々なことに興味を持ち、学ぶという向上心のある人の前にも、新しい学問への道が拓けると私は信じています。キーワードは、新しい学問の創出によるイノベーションです。

本講演では、私が携わっている文部科学省の先端融合領域イノベーション創出拠点形成プログラム「高次生体イメージング先端テクノハブ」（HP：<http://ckpj.t.kyoto-u.ac.jp/>）と博士課程教育リーディングプログラム「充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム」（HP：<http://www.lims.kyoto-u.ac.jp/>）を紹介し、私を含めて京都大学の医学と工学の教員・研究者が一体となって進めている最先端の研究と教育の“雰囲気”を感じてもらいたいと思います。また、本講演を通して、皆さんの将来にどんな“知的世界”が広がっているかをお伝えできれば嬉しく思います。

## **[B]** 京都大学 白眉センター

信川 正順 特定助教 (113 期)

### 「天文学者の研究生活 ～観測屋さんの場合～」

みなさんは天文学者の研究生活がどんなものかあまりご存知ではないでしょう。

天文学者といっても、宇宙を実際に観測している人もいれば、コンピュータを使ってシミュレーションを行い宇宙の成り立ちを研究している人もいます。このように、天文学者には大きく分けて観測屋さんと理論屋さんが存在します。観測屋さんと言っても、現在ではガリレオのように実際に望遠鏡を覗くことはありません。巨大な望遠鏡から天体データを取得し、コンピュータを使って研究をしています。さらに、観測する装置を作ることも天文学者の仕事です。

本講演では天文学者の中でも観測屋さんについて研究生活と、最先端研究の成果を紹介し、みなさんを「知的世界」に案内しようと思います。

**[C]大阪大学大学院理学研究科 物理学専攻 素粒子・核物理学講座**

下田 正 教授

**「元素はどうやって合成されたのだろうかー原子核物理学の最前線」**

身の回りの物質を構成している元素は、原子核の反応や崩壊を通じて、ビッグバン直後から現在にかけて宇宙で合成されてきました。自然界に存在する安定な原子核よりも陽子や中性子の数が極端に多い不安定な原子核の情報は、宇宙で重い元素が合成される過程で非常に重要な役割を果たしていると考えられています。これまで人工的に生成が難しかったこれらの原子核ですが、最近の加速器や検出器の進歩により、研究できるようになってきました。

この講義では、不安定な原子核の不思議な構造や性質について紹介し、不安定な原子核の宇宙での元素合成への関わりを解説します。

**[D]大阪大学 大学院言語文化研究科 言語文化専攻**

岩根 久 教授 (85 期)

**「炸裂する恋愛」**

変な題ですね。おじさんに恋愛の話聞いてもしかあない、と思うかも知れませんが、まあ聞いてください。16世紀のフランス（ルネサンスといわれる時期なのですが）で、いかに恋愛が詩の形で語られたか、というお話です。

私が北野高校に入学したのは1970年、千里丘陵で万国博覧会が開催された年です。今の皆さんはどうか分かりませんが、そのころ私にとって北野高校はワンダーランドでした。そのときのことについては、講演のときにお話ししようと思います。その後、73年に大阪大学理学部高分子学科入学、卒業後、文学研究科でフランス文学を専攻、今現在は書誌学（bibliography）・文献学（philology）・情報学（information science）を道具にしてフランス・ルネサンス期の詩を研究しています。

恋は目に見えないものだから、語らなければわからない、それも言葉を選んで巧みに語らなければ、耳を傾けて貰えない。そんな当たり前のことから恋愛詩は出発しています。ただ、何がいいのかを分かってもらうのは結構難しいことで、講演会では、歴史の話、言語の話を交えながら、また、映像、音楽を駆使して、力の限りお話ししようと思います。どうぞおつきあい下さい。

**[E]大阪府立大学 現代システム科学域 環境システム学類**

森岡 正博 教授

**「現代社会と幸福 — 哲学の視点から」**

みなさん、はじめまして。私はいま大学で哲学や倫理学を教えています。私が高校生だったときは、私は理系コースにいました。物理学の研究をしたかったのです。しかし大学に入ってから、人間の生と死や、幸福について考えてみたくなり、文系に転じました。「幸せに生きる」とは、どういうことでしょうか。2000年以上も前から、人間はそのことをずっと考えてきました。現代社会では、科学技術が進歩し、ものをたくさん作れるようになりました。しかしながら現代人は昔の人よりも幸福になったと言えるのでしょうか。もし科学技術によって人間の脳を操作することができるようになったら、どんなことが起きるのでしょうか。人工的に幸せを作ることができるようになったら、どうなるのでしょうか。そのような問題について考えてみたいと思います。

なお、1年生の行事ですので、1年生の保護者以外の方には案内プリントを差し上げておりませんが、2・3年生の保護者の方で、参加を希望される場合は、27日火曜日までに直接、進路室までご連絡下さい。